

消化器内科

機能性ディスペプシア
について

国吉病院

消化器内科

岡本博司 さん



機能性ディスペプシアは、潰瘍やがんなどの器質的な疾患がないのに、胃もたれや胃痛などの症状を引き起こす疾患で、日本人の4人に1人が患っているともいわれています。主な症状は、食後のもたれ感、

食事開始後すぐにおなかがいつぱいになる早期飽満感、心窩部痛、心窩部灼熱感です。診断には、上部消化管内視鏡検査にて、器質的疾患を除外することが必要です。病気の原因はまだ不明されていませんが、

胃の運動機能障害、知覚過敏、胃酸分泌の亢進、心理的な要因などが挙げられます。治療は、生活習慣の改善、内服治療（症状により消化管運動機能調節薬、胃酸分泌抑制薬、精神安定剤を使い分けたり併用）を行います。消化管運動機能調節薬ではモザプリド、六君子湯という薬がよく用いられ有効性が示されていますが、アコチアミドという新しい薬が6月より使えるようになり、治療効果が期待されます。

国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】消化器内科・循環器内科・消化器外科・緩和ケア内科・整形外科 他